

景色、歴史、味 増毛山道を体感



今季最後のトレッキング

果樹園、蔵元も巡る

今季は7回開催し、最終回の日ほ札幌や赤平、旭川などから16人が参加。トレッキングのスタート地点に向かうバスの中で、果樹園「千果園」の仙北剛久代表(58)、国稀酒造の案内人井村裕子さん(61)から果樹や蔵元の歴史について解説を聞いた。参加者は同会会員9人のサポートを受けながら、別荘―旧武好駅通間のうち約10キロを歩いた。落ち葉で埋め尽くされた山道からは天売島や焼尻島がくっきりと見え、足を止めて見入っていた。後半は雨に見舞われたが、1等水準点の標石や、郵便物の中継に使われた武好駅通跡では、会員の解説に熱心に耳を傾けた。

トレッキング後は千果園と国稀酒造を見学し、リンゴやナシ、日本酒を試食したり、購入したりした。

初めて参加した札幌市の古田和彦さん(75)は「開削の苦勞に思いをはせながら歩いた。友人と一緒にまた来たい」。同じく札幌市から初参加した李家康さんの(63)は「トレッキングも果物も酒も、説明を聞いて一段と魅力を知ることができた」と笑顔を見せていた。

▲今季最後の体験トレッキングで、増毛山道の会の織田達史さん(左端)による1等水準点の説明に耳を傾ける参加者

【増毛】江戸末期に開かれ、全線の復元が完了したばかりの「増毛山道」(増毛町別荘―石狩市浜益区幌、27キロ)を歩く今季最後の体験トレッキング(NPO法人増毛山道の会主催)が22日に行われた。今回初めて、地元の果樹園や蔵元を巡るルートを組み、参加者は経営者や案内人の説明に耳を傾けながら増毛の味覚も堪能した。(堀雅晴)